

「笛吹けど踊らず」

2015年06月16日

ルカによる福音書 7章31節～35節。「では、今の時代の人たちは何にたとえたらよいか。彼らは何に似ているか。広場に座って、互いに呼びかけ、こう言っている子供たちに似ている。『笛を吹いたのに、／踊ってくれなかった。葬式の歌をうたったのに、／泣いてくれなかった。』洗礼者ヨハネが来て、パンも食べずぶどう酒も飲まずにいと、あなたがたは、『あれは悪霊に取りつかれている』と言い、人の子が来て、飲み食いすると、『見ろ、大食漢で大酒飲みだ。徴税人や罪人の仲間だ』と言う。しかし、知恵の正しさは、それに従うすべての人によって証明される。」

主イエスは洗礼者ヨハネを「『見よ、わたしはあなたより先に使者を遣わし、／あなたの前に道を準備させよう』／と書いてあるのは、この人のことだ」と、神から遣わされ、主イエスの歩む道備えをする者であると語った。また、メシアの到来を預言した預言者たちがいたが、ヨハネはそれらの預言者以上の者であると最大の評価をしている。そのヨハネの言葉を民衆、徴税人たちは受け入れたが、自分の義を誇るファリサイ派の人々や律法学者たちは拒絶した。拒絶した者たちは自分に対する神の御心を拒んだのであると、彼らの不信仰を指摘した。

それから、今の時代を何に譬え、何に似ているかと問われた。それは、子どもたちが広場で歌い合っている「笛を吹いたのに、／踊ってくれなかった。葬式の歌をうたったのに、／泣いてくれなかった」という歌に似ている。喜びの笛を吹いたのに踊らず、悲しみの葬式の歌を歌ったのに泣かなかった。喜びにも悲しみにも心を閉ざし、頑なになっていると譬えている。笛を吹き喜び踊る人は主イエスを指し、葬式の悲しみの歌を歌う人は洗礼者ヨハネを指しているとも考えられる。

ヨハネがパンも食べずぶどう酒も飲まない禁欲的な宗教生活をしていると、心頑なな人たちは「あれは悪霊に取りつかれている」と言う。ヨハネの生真面目さについて行けない自分を正当化するための悪口である。一方、人の子（主イエス）が民衆と一緒に楽しく飲み食いしていると「見ろ、大食漢で大酒飲みだ。徴税人や罪人の仲間だ」と非難する。主イエスは大食漢で大酒飲みであったという。主イエスの宣教団は空腹を満たすため麦畑で麦の穂を摘んで食べるような貧しい群れであった。しかし度々、宴会を催している。その時は、大いに飲み食いし、喜びに満ち溢れた。その歓喜の騒ぎはファリサイ派の人々や律法学者たちにはにがにがしく思えたのである。ヨハネの群れの禁欲的な生真面目さと主イエスの群れの解放された喜びは対照的である。

また、主イエスは「徴税人や罪人の仲間だ」と非難された。徴税人レビを招いた後、宴会が持たれたが、その座で「医者が必要とするのは、健康な人ではなく病人である。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためである」と語っている。主イエスの周りには、社会から爪はじきされた「罪人」と言われた重病人、売国奴と言われた徴税人たちが群がっていた。主イエスは、神の恵みと祝福を告げ「生きよ」と彼らの生を肯定された。「知恵の正しさは、それに従うすべての人によって証明される」と語っている。正しい知恵は貧しくさせられた者たちが生き生きと生かされることである。その知恵は愛と正義の神に従うところで、はっきりと証明される。どんなに絶望的な状況であっても、主イエスの笛に合わせ、喜びの踊りを踊る者でありたい。